

令和5年度 学校経営方針

1. 校訓

真理・理想・進取

2. 教育目標（校訓に基づき策定（すべての基礎となる心身の健全さを付記））

- ① 真理の探究に向け、協働的に粘り強く挑戦する人の育成
- ② 理想を追求し、自己を高め、地域社会に貢献する人の育成
- ③ 進取の気象をもち、主体的、意欲的に行動する人の育成
- ④ 心身ともに健康、情操豊かで、他人を思いやる人の育成

3. 生徒と教職員の行動指針

- ① 真理の探究に向け、協働的に粘り強く挑戦する
- ② 理想を追求し、自己を高め、地域社会に貢献する
- ③ 進取の気象をもち、主体的、意欲的に行動する
- ④ 心身ともに健康、情操豊かで、他人を思いやる

4. 生徒と教員の目指したい人材像

グローバル人材

…グローバル・ローカルに代表される価値観の違いを超えて協働し、広い視野で考えながら身近な課題に粘り強く向き合い、新たな価値の共創に挑戦しようとする人材。

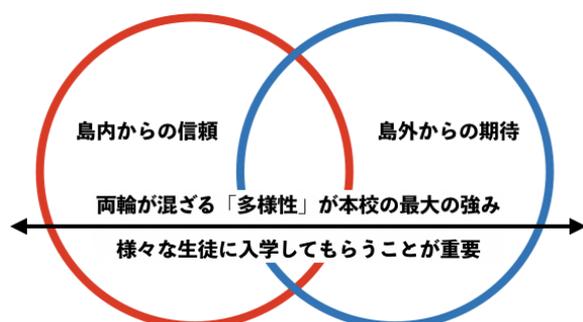
どこにいてもふるさとを思いながら、自分自身の強みや根差す地域の特性を活かして活躍できる人材。

5. 本校が置かれている現状

本校は隠岐島前地域唯一の高等学校である。高等学校が統廃合されて学びの拠点を失えば、若年層の人口流出は加速し、地域の衰退が加速することは自明である。地域にとって本校の存在意義は極めて大きく、今後も地域と高校が協働しながら「魅力的で持続可能な学校」を共創していくことが至上命題である。

本校が魅力化プロジェクトに取り組み始めてから14年が経ち、直近での統廃合は免れたものの課題は山積している。地域唯一の高校の魅力化を今後も継続していく本校の生命線は、2学級の維持と学修に意欲的な生徒の確保にある。そのためには、あらゆる面で下図の「島内からの信頼」に応えることと「島外からの期待」に応えることの両輪が駆動するよう教職員が協働する必要がある。両輪同士は、場合によっては価値観の違いから対立を起こす可能性も考えられ、取組には胆大心小さが求められる。

また、どちらか一方に絞ることは即ち1学級化への後退につながるため、多様性を最大限活かすことによる両輪駆動を目指すことが本校の価値を最大化することにつながると考えられる。そして、そのためには双方から多様な生徒に入学してもらうことが重要である。



6. 中期的な本校のスローガン

「失敗を共に称え合う学校」

これまで学校経営チームでは、第3期魅力化構想に基づき「人が変わっても進化し続ける学校」をテーマの中心に据え、人事異動によって人が変わり続ける本校の特徴をむしろ前向きに捉え直し、推進力に変えてきた。学校経営チーム発足から4年目となるタイミングで「人が変わっても進化し続ける学校」をこの学校の文化として、価値観として中長期的に残していくためのスローガンを掲げた。

本校の育成したい人材像や教育目標を達成するのに必要なのは「正解」よりも「問い」である。なぜなら地域・社会はより複雑性を増し、先行きを見通せないからである。そういった状況下でも問いを立て、その問いを検証するために一步前に踏み込んで行動することが重要である。先行きのわからない状況に失敗は付き物である。失敗は、とくに教育現場においてはともすればネガティブな単語と捉えられがちである。しかし、挑戦がなければ失敗は存在しない。挑戦の結果という観点から考えれば、失敗と成功は類義語とも言える。

一方で、失敗を失敗のまま終わらせるのでは意味がない。その失敗からできる限り多くを学ぶために「振り返り」が必要となる。「振り返り」の質の高さが、物事を成し遂げる確度の高さに直結するからである。そして、今後「振り返り」は、先行きのわからない不確実性の高い社会のあらゆる場面で必要な技術となる。

生徒だけでなく教職員も失敗を恐れることなく果敢に挑み、振り返りによって失敗さえも糧とする「踏み込みの島前」「振り返りの島前」を本校の文化、価値観に昇華させるべく『失敗を共に称え合う学校』を中期的なスローガンとする。



7. 令和5年度 学校経営目標および各分掌の重点施策等

令和5年度は中期的なスローガンを中心に置きながら、新学科のカリキュラム始動を踏まえ、次頁の一覧表を学校経営における目標並びに重点施策と位置付ける。また、目標の達成を目指し、推進委員会を設け、主幹教諭が主管する。なお、令和4年度重点施策の振り返りは別紙を参照のこと。

8. 重点施策に係る推進委員会および各分掌長からの進捗報告および評価

年度当初に実施案とスケジュールを推進委員会および各分掌長で策定し、それに基づく進捗を運営委員会（2ヶ月に1回程度）・職員会議（適宜）で共有する。

推進委員会は、広く教職員の意見が反映されるよう振り返りや協議の場を適宜設け、次年度の学校経営目標に反映することを目指す。

令和5年度 学校経営目標および各分掌の重点施策

	経営目標	2年後に目指す達成状態	今年度の終了時の達成状態
学校経営目標推進委員会	<p>①踏み込みプロジェクト</p> <p>様々な挑戦を教職員・生徒で共創し、失敗を称え合う仕組みをつくることで「踏み込みの島前」を実現する。</p> <p>生徒部特命教員 総務部特命教員 希望する教職員</p>	<p>一人ひとりの生徒・教職員が、島前地域・島前高校ならではの個人やチームで行う探究・プロジェクトを設定し、地域内外の他者を巻き込み、協働・共創する挑戦が当たり前になる状態。また、その過程で、挑戦しなければ起こらない、人生にとって価値ある失敗を仲間と称え合っている状態。</p>	<p>①HP 記事の発信、失敗ラジオ、学年通信など、あらゆる情報発信機会を活用し、日常に溢れる失敗を扱うことで、失敗の価値を高め、踏み込みやすい土壌をつくる。</p> <p>②「失敗の日」をさらに充実させる。「1:踏み込み→2:失敗を称え合う振り返り→3:さらなる踏み込み」というサイクルを回すための学校行事と位置付ける。また、失敗の日では、小中学生や保護者、地域の方など、参加者の対象を拡げる。</p> <p>③島前高流「価値ある失敗」を定義する。①～②の実践をもとに、社会に開かれた「失敗共創フォーラム(仮)」を開催する。フォーラムでは失敗の効果検証や、島前高流の「価値ある失敗」を定義し、今後さらに失敗を称え合う場をつくりやすくしていく。</p>
	<p>②振り返りプロジェクト</p> <p>外部専門家を巻き込みながら、本校独自の「振り返りプログラム」を構築することで、「振り返りの島前」を実現する。</p> <p>キャリア教育部特命教員 保健環境部特命教員 希望する教職員</p>	<p>振り返りが重要なのは2回目の挑戦こそが真の「踏み込み」だからである。1回目の試行を振り返り、2回目の踏み込みで飛躍するために振り返りを経営目標に掲げる。</p> <p>生徒・教職員ともに「失敗こそが次なる挑戦の種火」であることを真に理解し、技術としての「振り返り」が大切にされている状態。授業や部活動、行事や生徒指導等の様々な場面で積極的に活用され、卒業・異動後も各々で自走できる状態。ひいては本校が「振り返りの島前」と認識される状態。</p>	<p>①専門家としての外部人材を招聘したワークショップの要望が教職員・生徒から出る。</p> <p>②振り返りの重要性について教職員・生徒で認識を統一し、目指す姿の実現に向けて具体的に行動している。</p> <p>③本校独自の振り返りの試行版(手法やフォーマット等)を教職員・生徒が活用し、改良版が職員会議に提案される。</p> <p>④隠岐国学習センターや寮と連携を図り、生徒があらゆる活動について振り返りのプロセスを記録として残す意義を感じられる。</p>
	<p>③授業共創プロジェクト</p> <p>探究的な学びを教育課程の中心に据え、夢探究を含む科目横断的な学習の展開を、全教職員で共創する。</p> <p>教務部特命教員 各学年部夢探究チーム代表 希望する教職員</p>	<p>科目横断的な視点から、教科授業・探究学習・特別活動の領域に縛られない、効果的な授業の共創についての研究が蓄積され、日常的に実践されている状態。</p> <p>生徒が習得した知識・技能等を、日常生活と結び付けて活用し、探究的な学びが深まっている状態。</p>	<p>①各教科・科目の指導目標・内容・計画の情報共有が行われ、「学びの目的」を主眼に置いた科目横断的な授業づくりが、全ての教科・科目で実践できている。</p> <p>②取り組みの成果は「高校魅力化評価システム」等により評価し、資質・能力に係る生徒の自己認識・行動認識(主に探究性に係る自己認識)の肯定的回答70%以上を目指す。</p>

	分掌	2年後に目指す達成状態	今年度の重点施策
校務分掌	④総務部	<p>①広報活動・生徒募集がさらに充実したものになり、島内の小学校や中学校などとの交流が活発に行われ、島内進学率が70%を超えるようになっている状態。</p> <p>②2025年度に実施予定の学校創立70周年行事が滞りなく開催されている状態。</p> <p>③働き方改革の視点から、学校行事や会議の精選と諸規程集の整理がなされ、ICT機器の活用も進み、適切で効率的な勤務時間設定ができている状態。</p>	<p>島内進学率が70%を超えるように、広報活動・生徒募集をさらに充実させ、島内の小学校や中学校などとの交流の機会の充実を図る。</p>
	⑤教務部	<p>①学習において困難さを抱えるなどの支援を要する生徒に対して、個別最適な学習支援が行われ、基礎学力の向上が数値的に認められる状態。</p> <p>②各教科・科目において授業改善が図られ、評価と一体化された指導計画が完成して、学習指導要領に定められた各教科の目標の達成と隠岐島前高校の学校教育目標に基づく伸ばしたい資質・能力の伸長が数値的に認められる状態。</p> <p>③生徒学習用PCを活用したより効果的な授業や家庭学習が全ての科目で行われている状態。</p>	<p>学習において困難さを抱えるなどの支援を要する生徒に対して、インクルーシブ教育システム推進センター校 I-Room OKi との連携や ICT 機器を活用した学習方法の提供など個別最適な学習支援を行い、隠岐國学習センターと連携し、生徒個々の基礎学力の向上を図る。</p>
	⑥生徒部	<p>①人権・同和教育が推進され、きめ細やかな配慮を伴う適切な支援により、生徒が安心・安全な学校生活を送っている状態。</p> <p>②生徒の自主的・協働的な課外活動に対して適切な支援があり、生徒が気持ちよく隠岐島前地域で活動できている状態。</p> <p>③生徒会を中心として、校則を含めた学校生活のルールが見直され、社会的自立に必要な資質・能力及び態度が醸成されている状態。</p>	<p>人権・同和教育を基盤として、生徒が安心・安全な学校生活を送ることができるよう、きめ細やかな配慮を伴う適切な支援を行う。</p>
	⑦保健環境部	<p>①寮の施設管理を担保し、寮生との面談・保護者との連絡・HMと調理員との連絡調整も適切かつ迅速に行われ、事務部や海士町、魅力化スタッフと連携しながら、寮生の「責任が伴う自主・自立」の気運が高まっている状態。</p> <p>②日々の健康管理・教育相談・環境整備により適切な支援が行われ、生徒が心身ともに健康な状態で学校生活を送っている状態。</p> <p>③生徒が寮やシェアハウスでの多様な仲間や島親をはじめとする地域住民の方と協働して活動する機会が整備され、自主・自立を学ぶ場としての支援体制がある状態。</p>	<p>寮生が責任の伴った自主・自立の寮生活を送ることができるよう、その基盤となる寮の施設管理に努める。事務部や海士町、魅力化スタッフとの連携をより強め、寮生との面談・保護者との連絡・HMと調理員との連絡調整を適切かつ迅速に行える体制を整備する。</p>

<p>⑧ キャリア教育部</p>	<p>① 総合型選抜入試についての対策が学校全体で共有され、キャリア教育全体計画に基づいた指導が行われ、生徒及び保護者へ情報が提供できている状態。</p> <p>② キャリア教育部がリーダーシップを発揮し学校全体で取り組みが推進され、探究学習プログラムの質の向上が図られている状態。</p> <p>③ ポートフォリオ・キャリアパスポートの活用や的確な模試分析が効果を発揮するようになり、隠岐国学習センターと連携・協働したキャリアプラン検討会が充実し、生徒のキャリア形成を支援することができている状態。</p>	<p>キャリア教育全体計画に基づいて生徒の多様な進路志望に対応するために、隠岐国学習センターと連携・協働した総合型選抜入試についての対策を検討し、生徒及び保護者へ情報が提供できる体制を構築する。</p>
------------------	--	---